



平成27年度「夢ふくおかネットワーク」事業

保護者・企業担当者向けセミナー を開催しました！！



平成27年10月1日に保護者や企業担当者向けのセミナーを開催いたしました。
今年の春に高校を卒業して就職された特別支援学校の卒業生3名とその保護者や企業担当者、進路担当の先生にお越しいただき、就職に至った経緯や支援の内容、現在の様子をお話いただきました。その内容をご紹介します。

① 採用の決め手は「課題が多い、少ないではない、本人が課題についてどれだけ意識して取り組めるか」

K.Y.さん 福岡中央特別支援学校卒
Bizex（株）就職（物流倉庫業務）

ご本人の在学中の実習から就職に至る過程を追いながら、企業担当者、保護者、学校進路指導担当教諭、それぞれの立場からのサポートを具体的に紹介。実習の中で浮き彫りになった課題へ取り組むその姿勢が、採用の決め手だったと話すのは Bizex（株）の坂井氏。坂井氏はその姿勢に K.Y. さんの成長の可能性を感じたという。事実、入社して半年の K.Y. さんは、在学中では考えられないくらいの速さで仕事をこなす。目下の目標であるノーミス目指して、日々業務に励む様子をお話いただきました。



② グループホームでの規則正しい自立した生活、充実した余暇活動が就労を支えている

松下 平和さん 東福岡特別支援学校卒
(株)シバタ就職（折箱製造）

実習を通して、松下さんのまじめで誠実な人柄を認めてもらい採用に至りました。(株)シバタの工場長の指導の下、仕事のスキルだけでなく、社会スキルも指導をいただき、そのアットホームな雰囲気は本人にも合っているとのことでした。さらに、現在はグループホームでの生活が就労を支えているといっても過言ではないと話すのは在学中から就職に向けて指導を行ってこられた特別支援学校の寺田先生。グループホームでは、規則正しい生活に加え、掃除、洗濯なども自分でこなし、さらにスポーツや地域活動を行うなど充実した余暇活動にも参加。こうした生活ぶりが仕事への意欲につながっているとと言えます。

③「社会で通用しないことはサカセルでも通用しない」先を見据えた指導が A 型事業所の使命

三好 大志さん 屋形原特別支援学校卒

就労継続支援 A 型(株)サカセル就職 (ポップコーン製造)

「いずれ一般就労につなげることを視野に指導しています」と話すのは、(株)サカセルの竹下氏。入社時の三好さんは、学校に通っていた頃の生活と意識が抜けない状況があったため、支援としてまずは社会人としての心得から始めたとのことでした。「障がいの特性でできないことは容認できるが、それ以外のことは厳しく指導します。サカセルで許されることは世間でも許され、世間で通用しないことはサカセルでも通用しない」ことを三好さんにも伝えてきたとのこと。A 型から一般就労しても 30%程度しか長続きしない現実を踏まえ、本人の 20 年、30 年先を見据えたサポートを行っていると話されました。その言葉通り、夏場の暑い時期でも頑張っている姿に励み、成長した三好さんの姿がありました。



保護者に聞きました・・・

セミナー終了後のアンケートでは、特に保護者の方々からの質問が多く寄せられました。そこで今回ご登場いただいた保護者の方に、お子さんが就労を目指すにあたり取り組むべき家庭からの支援について改めてお話を伺いました。

Q.お子さんの就労を意識したのはいつくらいからですか？

A.考えてみると、かなり以前から頭の中に漠然とあったのかもしれませんが、子どもがまだ小さいとき偶然見たテレビ番組で、アメリカの重度の障がい者の方が働いている姿を見て「どんな人でも仕事はできるんだ」と感心したことがきっかけでした。意識していると自然と障がい者雇用の情報も得られるようになりますね。

Q.就職させるために特に気をつけてきたことや特別に取り組んだことがありますか？

A.当たり前のことかもしれませんが、学校はよっぽどのがない限り休まないようにしていましたし、遅刻もさせませんでした。「休まない」ことは仕事を続けていくうえでは必須。そのためには生活が不規則にならないように気を付けていましたし、今でもそこが一番大事です。

また、土日でも家でだらだら過ごすということがないように野外活動などは積極的に参加させていました。もちろん、本人のみで…。まったくの他人の中で過ごすことも今にして思えば必要な経験だったと思います。

Q.今の職場に決まるまで何件くらいの実習をされたのですか？

A.5 回くらいだったと思います。正直うちの子には難しいとは思いましたが、できないと思ったらそこで成長は止まります。障がいの重い、軽いにとらわれず何事も経験と思い、先生に頼んで実習に行かせていただきました。本人も外部実習に行くことで“働く”ことへの意識が芽生えてきたと思います。適性や職場の雰囲気も、親がいいと思う所と、子どもがいいと思う所は違います。たくさんの職場を経験するほど経験値も選択肢も増えます。

Q.実習をいくつか経験された中で、今の職場に就職された決め手は？

A.うちの場合、仕事の内容や通勤に便利かどうか、ということよりも、その職場の人や環境という点を重視しました。結果として課題もこなせるようになり、仕事も意欲的に取り組んでいるのだと思います。通勤は少し大変ですが、これも彼女にとってはよい社会経験となっていると思います。

Q.最後に、これからお子さんの就職活動を迎える保護者の方々へアドバイスをお願いします。

A.娘は障がいという決して軽い方ではありません。ですが、それにとらわれず次につながるようなたくさんの経験を積ませてきました。実習や面接もそうですが、日常の生活の中でも、買い物や公共の交通機関、余暇活動など、失敗も含めてひとつひとつの経験がすべて今の娘につながっていると思います。

アンケートに寄せられた感想の一部をご紹介します

◆仕事は就職できた満足ではなく、長く続けられることが大事です。その点、今回登場された企業の方は長続きするような態勢をとられていると感心しました。(特支学級・保護者)

◆子どもがまだ小学生ということで、知らないことがいっぱいあった。でも小学校のうちから始められることもたくさんあるとわかってさっそく始めたいと思いました。(特支学校・保護者)

◆現在、当事業所では障がい者雇用を推進しているが、障がい者に対する知識が乏しく、セミナーの内容はとても参考になる話だった。(企業担当者)

◆いろいろな立場の方の就労のお話が聞けてとても参考になりました。(特支学校・保護者、企業担当者)

◆企業はとても無理と思っていましたが、やろうと思えばできないことはないのだと思いました。(特支学校・保護者)

◆就労することで学校教育では得られない学びや喜びがあるのだと知ることができました。(教員)

◆一般企業で働いている環境が少し理解できました。(A型事業所担当者)

ChalleKid's

チャレキッズ ～ 障がいのある子どもたちの夢を叶えるプロジェクト

秋合宿2015 お泊り体験、とっても楽しかったね!

10月17日(土)～18日(日)にチャレキッズ主催の秋合宿を行いました。参加してくれたのは、公募で応募してくれた市内の特別支援学校、特別支援学級の小学生1年生～6年生児童22名。実行メンバー5名に加え、この日のために集ってくれた一般ボランティア24名と発達教育センターにお泊りして2日間の体験プログラムを楽しみました。

なかには家族と離れてのお泊りは初めてという子どもも多く、保護者も後ろ髪をひかれる思いだったと思いますが、翌日、元気に活動の報告をする子どもたちにほっとするやら、頼もしさを感じるやら・・・。

チャレキッズでは、これからも「自発の芽を育てる」「選択の力を育む」「障がいに対する理解を拓げる」をキーワードに、子どもたちの夢を応援していきます。



↑イロトリドリワークショップ。
どんな鳥ができるかな



←朝の体操だよ



←発達教育センター周辺の
清掃活動

チャレキッズ セミナーのご報告

障がい児の『自立』を考える

日時 2015年12月23日(水) 祝日 13:30～16:30

場所 福岡市市民福祉プラザ 601 研修室(福岡市中央区荒戸 3-3-39)

対象 障がいのある子どもの保護者、福祉関係者、そのほか内容に興味のある方

内容 障がい児の「自分らしさ」を生み出す環境づくりをテーマに、保育所等訪問支援事業所「Switch」所属/作業療法士 高橋知義氏、福岡市立東部療育センター所属/臨床心理士 坂口美由紀氏を迎え、チャレキッズ発起人 就労移行支援ワークオフィス 絆結所長 船越哲朗氏の3名による事例報告やパネルディスカッションを行いました。

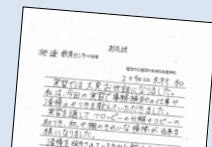
当日は50名ほどの参加をいただき、なかでも障がいのある子どもの自立とはどういうことなのか、様々な視点での捉え方に保護者の方からは大変参考になったとのお声をいただきました。

庁内インターンシップ、頑張っています！！

2 学期からスタートした庁内インターンシップも順調に進んでいます。発達教育センターでも計 8 名の実習生が頑張りました。

最初は緊張したり、仕事の要領や流れが掴めずに戸惑っていたりした実習生も、2日、3日経つうちにどんどん仕事が早くなり、挨拶や報告もしっかりできるようになりました。中には見違えるように実力を発揮した生徒もいて、子どもたちの可能性を改めて感じています。

これからも実習はまだまだ続きます。頑張っている生徒たちの応援よろしく願いいたします。



【ある実習生からのお礼の手紙】

私は今回の実習で事務補助のお仕事や清掃のやり方を教えていただきました。どの仕事もやるのがたくさんあってとても大変なんだと思いました。実習で学んだことをこれからの学校生活や将来に生かせるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。(一部抜粋)

◆◆◆ 特別支援学校生徒による

合同技能発表

が行われました ◆◆◆

福岡地区、筑後地区の特別支援学校 11 校による合同技能発表会が去る 11 月 11 日に福岡市立博多高等学園で行われました。これは特別支援学校高等部の生徒たちが日頃学校で学んでいる職業技能を企業の皆様の前で発表する場で、今年で 3 回目となります。

当日は福岡県内企業・団体 58 社 80 名あまりの採用担当者の方々が参加され、生徒たちによる学校紹介やそれぞれのブース内の展示品、個性豊かなデモンストレーションに見入っておられました。

発表会の後は各学校の教職員と企業担当者との交流会も行われ、障がい者雇用や人材確保のための情報交換の場として盛況でした。

ある企業担当者の方は「どこの生徒もよく訓練されていると感心しました。それ以上に、生徒たちの一生懸命さに感動した」と感想を述べておられました。また「生徒たち自身も他の学校の発表の様子を見ることでお互い刺激になってよかった」と話されるのは担当教職員のお話。こうしたイベントで自分たちをアピールする場があるのは、生徒たちにも貴重な経験となったようです。ご参加いただいた企業の皆様、本当にありがとうございました。



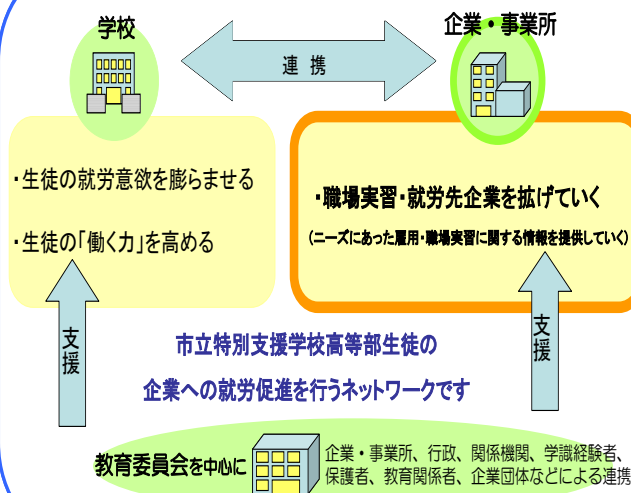
「夢ふくおかネットワーク」 へのご登録 ありがとうございます

平成27年10月1日～11月30日までに新規でご登録いただいた企業様

(株)新日本ベンディング	(株) アジャスト
エイトレント(株)	サービス付き高齢者向け住宅 ひいの邸
ハッピーテラス唐人町教室	公表許可をいただいた分を掲載しております

*「夢ふくおかネットワーク」登録ご希望の方は
発達教育センター就職指導員(赤松)まで

「夢ふくおかネットワーク」とは？



福岡市教育委員会 発達教育センター

〒810-0065 福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-6
 TEL 092-845-0015 FAX 092-845-0025
 E-mail yume_network@city.fukuoka.lg.jp
 H P http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/

「夢だより」についてのご感想、ご意見などをお寄せください。

※左記参照

